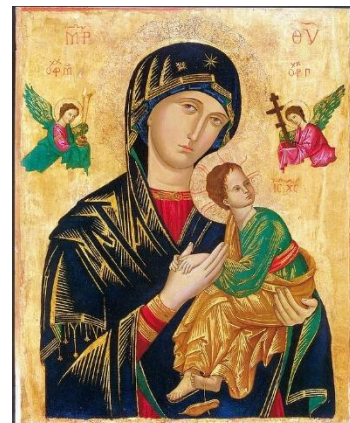


カトリック八尾教会ニュース

2025年5月



こんげつ よてい 【今月の予定】	じかん ミサの時間	せいぼづき 【聖母月】	Tháng năm
4日(日) 復活節第3主日	7:00 10:00		
11日(日) 復活節第4主日	7:00		
世界召命祈願の日	10:00	信徒総会(10時ミサ後)	
17日(土) 信仰講座	16:00		
18日(日) 復活節第5主日	7:00 10:00	病者のための祈りの集い	
ベトナム語のミサ	15:00		
25日(日) 復活節第6主日	7:00		
世界広報の日(献金)	10:00	子どもとともにささげるミサ(初聖体志願式)	
【平日のミサ】 木曜日	10:00	15日、22日(1日、8日、29日はお休み)	



■教皇フランシスコ逝去<教皇庁広報部>

「親愛なる兄弟姉妹の皆さん。深い悲しみをもって、教皇フランシスコのご帰天をお知らせしなければなりません。今朝7時35分(日本時間午後2時35分)、ローマ司教フランシスコは御父の家に帰られました。教皇の全生涯は、主とその教会への奉仕のためにささげられました。」

教皇は、とくに最も貧しい人、最も疎外された人のために、忠実と勇気と普遍的な愛をもって福音の価値観を生きたことをわたしたちに教えてくださいました。

主イエスのまことの弟子としての教皇の模範への深い感謝をもって、わたしたちは教皇フランシスコの魂を三位一体の神の限りない憐れみの愛にゆだねます。」

(2025. 4. 21 午後6時)



(カトリック中央協議会H.Pより)

■お知らせ

◎令和7年度「月定献金袋」の配布をしています。今年度もご協力お願いいたします。【財務部】

◎住所変更に伴い、当教会へ転入又は他教会へ転出された方は速やかにご連絡をお願いします。
(住所変更のみされた方も教会へご連絡ください。)

【総務部】

◎ブロック2025年通常聖年四国巡礼 日帰り<7/21(祝)>のパンフレットが配布されています。詳しくはパンフレットをご覧ください。各自でお申込みください。

■2025年聖週間

今年も受難の主日から始まった聖週間が捧げられました。



受難の主日 (4/13)



聖木曜日 (4/17)



聖金曜日 (4/18)



復活徹夜祭



■ミニエッセイ「ある恩師の言葉」

私の宝物のひとつにお粗末な色あせた模造紙のサイン帖がある。そこには小学校卒業の際に先生方と同窓生諸君合わせて三十数名の私への心のこもった別れと激励の言葉が輝くように書かれている。何かの折にふれ、そっと取り出しては、純真だったあの頃を思い起こし、自分への反省を促し勇気付けとしている。なかでも、担任の言葉が強く胸を打つ。「○○君よ、地位を望むな。人間になる事を望め。体の小さい事を恥じず、心の小さい事を恥じよ！」と力強い文字で書かれていた。学年一のチビのくせに一言多く、授業中新米先生の揚げ足をとる小生意気な私なのにことのほか目をかけてもらった。私ばかりではなく、いろんな悩みを抱えたクラスの生徒たち一人ひとりに陰ながら身をもって、お世話されていた事を社会人になってから皆より聞いて知った。人生を顧みて、教えて頂いたこと全てが自分の大きな支えとなり、全く無縁であった信仰に心を寄せ、十五歳で洗礼の恵みに与ることができた。その後も良き神父様、先生、先輩、友人達に囲まれ、現在、八尾教会の一員として歩みを続けている。(信徒、H.H)

【※この聖年の期間、巡礼の体験や信仰の歩みについて、みなさんよりミニエッセイを募集いたします。ぜひ、広報までお寄せください。】

「希望はわたしたちを欺くことはありません」
(ローマ5・5)。使徒パウロは希望のしるしの名のもとに、ローマのキリスト者の共同体に励ましを与えます。古来の伝統に従って教皇が25年ごとに宣言する、次の聖年の中心となるメッセージも希望です。わたしは、聖年を過ごすためにローマを訪れる人たちと、使徒ペトロとパウロの町に行くことはかなわずとも部分教会において聖年を祝う人たち、そうしたすべての希望の巡礼者のことを思います。すべての人にとって聖年が、救いの「門」である主イエス（ヨハネ10・7、9参照）との、生き生きとした個人的な出会いの時となりますように。

希望に引き寄せられていきましょう。希望が、わたしたちを通して、それを望む人たちに浸透していきますように。わたしたちの生き方が、彼らに「主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め」（詩編27・14）と語りかけるものとなりますように。主イエス・キリストの再臨を信頼のうちに待ちながら、わたしたちの今が希望の力で満たされますように。

Sắc chỉ công bố Năm Thánh thường lệ “Spes Non Confundit”

Spes non confundit. “Hy vọng không làm thất vọng” (Rm 5,5). Với dấu chỉ hy vọng, Tông đồ Phaolô đã khích lệ cộng đoàn Kitô hữu ở Rôma. Niềm hy vọng cũng là sứ điệp trọng tâm của Năm Thánh sắp tới mà theo truyền thống cổ xưa, Đức giáo hoàng công bố 25 năm một lần. Tôi nghĩ đến tất cả những người hành hương của niềm hy vọng sẽ đến Rôma để sống Năm Thánh, và nghĩ đến tất cả những ai dù không thể đến được Thành phố của hai Tông đồ Phêrô và Phaolô, nhưng cũng sẽ cử hành Năm Thánh tại các Giáo hội địa phương của họ. Đối với mọi người, ước gì Năm Thánh là một thời điểm gặp gỡ Chúa Giêsu cách sống động và cá vị, Người là “cánh cửa” ơn cứu độ (x. Ga 10,7.9), là “niềm hy vọng của chúng ta”.

Từ hôm nay chúng ta hãy để cho niềm hy vọng này thu hút chúng ta, và qua chúng ta lan toả đến những ai khao khát niềm hy vọng ấy. Ước gì cuộc sống của chúng ta nói với họ: “Hãy trông cậy vào Chúa, hãy mạnh mẽ và can đảm; hãy trông cậy nơi Chúa” (Tv 27,14). Ước gì sức mạnh của niềm hy vọng lấp đầy hiện tại của chúng ta, đang khi chúng ta tin tưởng chờ đợi ngày trở lại của Chúa Giêsu Kitô, Đáng đáng được chúc tụng và tôn vinh, bây giờ và mãi mãi.

ひび わた おんがく 響き渡れ、音楽よ！

チェ ジュヨン しんぶ
崔 周永 神父

「音楽があなたを救うだろう」。何年前だったか、心の中から浮かんできたセリフだ。
なんとなく音楽は好きだったし、それなりには聞いていたので、意外だったというのが
当時の印象で、その内面の声以降もそんなに真剣に音楽を聴くことに取り組んだわけではなかったが、徐々に且つ少しずつ音楽の世界に、その素晴らしさにハマっていったような
気がする。既に、ラジオ付きの Victor CD プレーヤーは持っていたが、去年末から今年にかけてスピーカーにアンプを、レコードプレーヤーにネットワークストリーマー、それに
サブウーファー、最後にカセットデッキを買い集めて自分のサウンドシステムを完成させた。
亡くなられた老司祭の形見として、いっぱいレコード盤をもらい、音盤の溝を走る針を
通して、60、70年代に収録されたクラシック音楽をたっぷり味わっていて、聴いているうち

きになった演奏家や音楽家の作品をネットワークストリーマーで検索して曲を聴いてみたり、自分の音楽理解の外縁を広げていく。

音を通して展開される新しい世界との出会いに胸が高鳴るばかりで、まだ聴くべき曲があまりにも多過ぎて欲張りは禁物だと自分に言い聞かせたりする。何故なら、音楽の「新しさ」のみを追求してしまうと、見落としてしまう大事なことがあるからだ。それは、その曲が持っている「物語」のことだ。言わば「思い出の曲」！例えば、私の高校3年の頃、亡き父と亡き兄とが大喧嘩をしていた時に大音量でアパート内を響き渡っていた、バンドのダイアー・ストレイツの「Money For Nothing」！曲の頭のギターソロ演奏、それを忘れることは決してないだろう。好きではなかったダイアー・ストレイツを、ここ最近ちょこちょこ聴いたりする。

不思議なことにも、結びついていて暗い記憶は削ぎ落され、音楽自体が持っている素晴らしさに聴きほれてしまうのだ。そうだ。当時高校3年頃、主日、いいえ、まだ信者ではなかったので日曜日と言った方が良さそう。日曜日には学校に行き、自分一人の教室で勉強をしながら歌を歌っていた。今振り返ってみると、変な奴だったわけだ。

しかし、それほど、息詰まっていたのだろう。そして、大学に行き、その後、かなり長い間、音楽から遠ざかっていた。音楽を聞いてはいたが、聴いてはなかったと思う。

ほぼ全部の力を使って私は所謂「愛」を求めていたので。また時間が経って行った。山あり谷ありの道のりの末、音楽に再会した。

そうだ。自分は音楽が好きだったんだ、ずっと！そして、感じるのだ。

全ての道のりに共にいて下った、神様という素晴らしい音楽の存在を！

